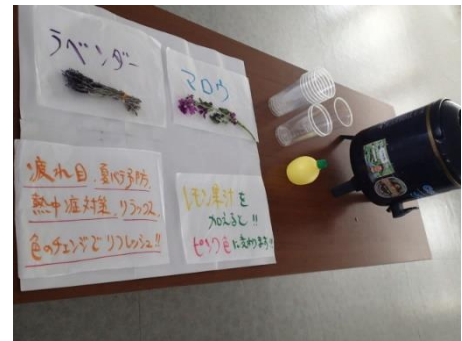


家庭教育推進と地域活動について、小原田の地域コーディネーター活動を紹介いただいた。ブロック会議が平成23年からスタートし、家庭教育推進アドバイザーとして、PTA活動の延長線上で地域と学校と子どもたちをつなぎたいと考えて活動している。まず、生業のハーブの研究家を生かして小原田小学校で、中庭をハーブガーデンにして、収穫体験や、お茶にするという事業を開始した。「三方よし」が家庭教育推進と地域活動の私のテーマになっていて、「子どもたちもよし」「学校の先生方もよし」、自分たち「地域の方々もよし」という「三方よし」の事業でないと長続きしないという思いがあったので、子どもたちの意見も聞きながら進めた。その活動を、広く地域の人に知ってもらいたく福島民報社に新聞記事を書いている。ところが東日本大震災の後、除染で全てお庭中の植物がなくなってしまった。現在は試験栽培も含めてハーブをまた植えているところ。



地域の人に講師役を務めてもらい、子どもたちに自由学習会を支援していこうという「こはらだ寺子屋」事業を始めた。長期の夏休みと冬休みに2回ぐらいずつ、企画している。近くの日大工学部のジェネラルスポーツ同好会という、新しいニュースポーツを研究しているサークルが、あけぼの幼稚園で、サイエンス教室として空気砲作りや縁日のお手伝いをする活動をしていた。「こはらだ寺子屋」に講師で来てくれないかとお願いしたら、二つ返事で引受けてくれた。活動を位置づけてくれたので大学を卒業しても、また次の学生さんが講師を勤めてくれるという循環ができた。現在では、この寺子屋を卒業した小学生が大学生になって講師として戻ってくるという好循環に入っている。

公民館とも連携して活動することにした。自力で広報するのは、難しいので公民館の事業としてチラシを作成した。また、公民館が夏休み自由学習会として公民館を開放する「のびのびサマースクール」に、「こはらだ寺子屋」も共催として同時開催した。これはもう爆発的にヒットした。公民館に遊びに来ると自由学習会で支援があり、さらにみんなで楽しく遊ぶという楽しい取組になった。持ち物は、上履き、勉強道具とおやつ材料費。ここがポイントで100円ぐらいで楽しいおやつタイム、子ども食堂のような内容になっている。地域の人にもいろんな食材を持ってきてもらい、100円では絶対できそうにない料理が並んでいる。



「小原田のいにしえを訪ねる会」という小原田に集い歴史を研究して小原田をうすらかすらすするシニアの皆さまのサークル活動があり、講師として小原田の昔を子どもたちに教えてもらった。シニアの皆さんも喜んで楽しんでた。今度は昔の人たちがどういうものを食べていたのかというのもやらないかと話している。

さらに、「のびのび寺子屋」という「のびのびサマースクール」と「こはらだ寺子屋」の発展系の活動として公民館のインスタグラムで情報発信し始めている。今後、地域と家庭と学校を、インターネットを繋いでハイブリッド寺子屋ができるのではないかと考えている。いつでもどこでもハイブリッド寺子屋ができれば、無理に集わなくてもいい。もちろんリアルに集うことも必要だが、集わなくてもアドバイスできる。家庭教育推進と地域活動の発展形にもなる。近い将来そういうこともやっていきたいと思っている。また今後は公民館でやるような事業を、学校の中で出来ないかという考えもあり、学校に相談しながら実現させたい。今後の目標である。

協議「県中域内における家庭教育支援の重点テーマ」について～今、取り組むべき事～

議長 ブロック会議アドバイザー 郡山女子大学家政学部生活学科 小林 徹 教授

(議長) 今回、家庭教育支援とうかがって、いざ家庭教育とは何かと考えた時に困ってしまいました。本日この会でみなさんと家庭教育についてお話しするにあたって、家庭教育のイメージを共有したいと思います。みなさんが考える「家庭教育」とはどのようなものか、ぜひお話しいただきたいです。私自身は、学校の教師をしていた経験から、家庭というのは近くにあるのになかなか手が届かないところでした。踏み込んでいこうとすると、親御さんから抵抗を受けます。だからといって、家庭の中が安心して生活できているかどうかはわかりません。中には、虐待や家庭内暴力のケースがありました。親御さんがやっとなり決断して、僕らが家庭に入っていくと、初めて外からは見えなかった状況がわかって驚きました。だから家庭教育という言葉の理解が、ひとつひとつの家庭でみんな違っている印象があります。もちろん「家庭で行われている教育活動」と言えば、いろいろあって当然です。しかし、「教育虐待」と呼ばれる事例では、親が子どもに過剰な期待をして、本人の意志を無視した目標に向けて、激烈な指導をした結果、子どもが精神的に追い詰められて、親御さんを殺害するという事件が起きました。これも家庭教育には間違いのないわけですが、どこか歯車が狂ってしまった感じがあります。



様々なお立場で、地域活動に取り組まれている委員のみなさまですから、多くの知識知見をお持ちだと思いますが、今日はそれに加えて一人の家庭人としての御意見もぜひうかがいたいです。

- (A) 家庭教育とは、親と子の学び合い、と思っています。大人も子どももいわゆる Win-Win の関係でなくてはいけないという、それを柱に思っています。
- (B) 子どもが生まれてきて子どもが育つ場、その一番基本的な場というふうに感じています。それから愛着形成をまずする場所。そこが、子どもにとっては、心身ともに育っていくための必要な栄養素を育むのが家庭だと思います。
- (C) 自分は、両親や祖父母に育てられてきた中でよいと思ったことを、自分の子どもや地域の子どものために伝えてきた。さらに、自分の子どもには、できるだけ挑戦させてあげようともしてきた。そうして現在は、それなりに人の親になっているので、そういう子育てで良かったかなと思っている。
- (D) 勉強を子どもたちに教える機会が多いので、そのときよく意識していることが、子どもたちが判断基準や目標設定を自分でできるようになること。そういう状態にするのが教育だと思っています。例えば勉強だと、これはこうやればいいよねって教えるのは教育ではなく、わからないことに対してそれどうしたら分かるのかなと子どもたちが自分で分かるようにする。ノートを見たり辞書で調べたり大人がいなくても自分でできるようにする。そういう環境を導いてあげるのが、教育ではないのかなと考えております。

それを家庭教育と捉えた場合には、例えば、食事を「ながら時間」で行うことについて、駄目だと指導すると思うんですよ。そうではなく、食べ物をこぼしたり、食べるのが遅かったりするのは何でなんだろうと聞いてあげる。子ども自身が、間違いに自分で気づける、導いてあげるのが教育かなと。

- (E) うち子どもと一緒にいる時間を多くつくる。それから自分の子どもの顔をよく見る。隣の子ともと比べない、そういう子育てをしてきました。あと地域の活動に参加してお友達を多くつくる。また、最

近は叱れない親が多いが、しっかりと人前でも叱りました。

- (F) 私が考える家庭教育は、家庭という枠にとらわれることなく、家族だから家庭というわけでなく、家庭がちゃんと出来ないのに家庭教育は無理だという家庭が今とても多いと思うんです。地域全体で生まれたときから子どもから大人まで一人の人間として育てていく。大きな日本を一つの家庭にとらえることが大事ではと思います。
- (G) 私が関わるのは、どうしても非行に走った子どもですけども、その子たちを見てみると、その子たちだけが悪いわけではなく、やはり家庭環境に問題があるところがあり、親御さんが子どもにモラルを教えるところが必要ですけども、親御さん自身も、モラルに欠けてる部分があるなという家庭がよく見られます。
- (H) 家庭教育、支援の何を議論すればいいんだろうと思っています。家庭の教育を充実させることがテーマなのか、家庭を教育していくことがテーマなのか。それで自分のことで思うとあなたのうちの家庭教育って何ですかって聞かれたら、多分皆さんおっしゃったような押しつけみたいなのところとか、教育観みたいなのことになると思う。それは今すごく多様化していて、それを重点テーマとして扱うのも難しいと思っています。うちの家庭教育はとにかく健康で元気にいてくれればいいなという最低限です。
- (I) 子どもが成長していくには、親が欠かせない、親というか関わる人です。今だと、家族環境が多様化しているので、親と子の学び合いというのが、すごくマッチしてるなと思います。子どもの成長に合わせて親も関わり方などを学んでいき、親としての学びを得ないと、お互いに成長出来ないかなっていうところがあります。

一人の子もやはり、教科書どおりの成長発達をする子もいれば、そうでない子もいたりして、その子への関わり方がもう多様化してるので、それを親としても学んでいかなくはないっていうところがとてもあるかなと思います。ダウン症の子に対しては、今まで保健師としてこうあるべきだという成長の在り方だけでなく、母親自身も成長しないといけないんだなと実感しました。

- (J) 私は仕事で、ほぼ家にいないので、妻に任せています。ただ、できる限り子どもと触れ合うときに、心の豊かさをテーマにしており、とにかくポジティブに明るく元気に前向きに楽しく笑顔でという「五要素」を非常に大切にしております。私は三代目で暮らしてるんですけども、両親だけじゃなくて祖父母もお互いに勉強しなければならぬよなと思って教育をしています。企業としても、幼稚園の保護者の方を会社に雇い入れて、しっかりと勉強していただいたり共有したりをしています。心の豊かさも、お金で一部解決できる場所があると思うんですよ。しっかりお金を稼いでいただいて子どものために使っていただきたいと思い活動しています。
- (K) 一番大事にしているのは叱ったときに引きずらない。ゲームをやったり、ネット依存だったり、それ終わってから勉強し始めようとするので、いつも夜遅くなるので勉強止めて寝るぞっていうんです。叱ったあと、いつまでも不機嫌な態度を見せると子どもが怖がって話しかけてこなくなるので、怒ってるよねと1回言われた時、「怒ったのはそれをやってないから怒ったんだ。それ以外のことは、怒ってないから飯食おう」っていう話をしました。家庭の中の主観っていうのにとらわれず、客観的な教育を見るために地域と広がるつながる必要があるのかなと思っています。
- (L) 家庭教育で大事にしていることは、子どもの自主性、継続力、コミュニケーションの三つです。自分で興味のあるものをしっかりと勉強する、やり始めたら、時間がかかっても最後までやり遂げるということが大事かなと思っています。コミュニケーションは、子どもが話しているのに、片手で聞いてしまわないように十分注意を払っているつもりです。

PTA会長としては、学校は80人弱と少ないが、どこの家庭もコミュニケーションを大事にして、子ども同士のつながりが深く、気づきも多く助け合いがよく見られます。やはりコミュニケーションは、この三つの中でも一番大事だと思っています。

- (M) 子どもがちゃんとした大人になる、ちゃんとが何かは正解がわからないですけど、自立して成人する

ために、最低限のことを教えることは親としての責任だと思います。その親の学びは、時代に対応していくことが大事ではないか。しかし何が正解かってというのではないと思います。生きていく中で、マイナスではないことを積み重ねていけばいいのではと、ぼんやり思っています。

(議長) ありがとうございます。この後グループごとにお話をさせていただきますが、少し整理しておきましょう。これだけの人数でも様々な「家庭教育」の内容がありましたね。何人かのお話の中に多様化という言葉がありました。親子の学び合いでは、おじいちゃんからお父さんお母さんに伝わってきたものをそのまま子どもに伝えるか、工夫して変えていくかというお話もありました。また、親が子どもから学ぶという視点では、障害のあるお子さんからお母さんが多くのことを学んだお話が印象的でした。学び合いというテーマは、形は違えども、どの家庭にもあるのだと感じました。

また、大人から提示して型にはめるのではなく、子どもが自分で考えられるようにする大切さがありました。しつけという形から入ってしまっ、子どもが理解できないまま指示に従わなければならなくなります。「わかる」と「できる」という視点で考えるとよいと思います。わからなくてもできればよいという考え方もあります。でも、なぜするのがわからないと長続きしないわけです。

それから、多様性を表す「みんな違ってみんないい」という言葉が学生には非常に人気があります。この言葉に反論することは難しいのですが、ただ、みんなが好き勝手にやっていたのでは、集団生活は成り立ちません。みんなが違っている状況を守りながら、みんながそろって幸せになれる落としどころを探す必要があると思うのです。とても難しいけれども大切な課題だと思っています。

それではみなさん、グループ協議をよろしくお願いします。

(グループ協議)



(議長) ではそろそろまとめましたでしょうか。順番に聞きます。ABCでいきます。

(A班) 私たちは4人で、アイデアフラッシュ的にいろんな意見を出し合い、その中で1番多く出てきたワードがコミュニケーションです。

そのコミュニケーションの前に、ワードをいくつか付けました。「学び合おうコミュニケーション、つなげようコミュニケーション、広げようコミュニケーション」学び合いながらつなげていって、それをさらに広げていくという広がりが非常に見えてくる。展望が見えてくるようなワードで重点目標としてもよいのかなという話合いになりました。

(B班) まずは、その愛着形成をするべきだと。やはりコミュニケーションのために家庭内での親と子の学び合い、成長というところ。まとめると、地域、周りの活動されてる方の支援というところ。愛着形成と支援ということ重点目標になるのではないかなということでもめました。

(C班) スポ少やクラブ、習い事などをやってなく、特にやりたいこともないが学校終わってから居場所もない子どものために、ダンス活動をするNPO法人を作って開始したところ、約40名が集まってくれ、中には、不登校だけどダンスはしたいとか、みんな友達に来るからとか、地域の居場所を確保しつつ、地域のつながりを作って活動があります。これが広がってくれたらいいと思います。団体に対しての支援や広報をして各地区に広がれば、もっと子どもたちの居場所、地域のつながりできるのではという話になりました。

(議長) 様々なご家庭がありますね。確かに「みんな違ってみんないい」わけですが、様々なご家庭ひとつひとつに働きかけられるような、取組を提案できたらいいですね。また、今日は特にみなさんが家庭教育について「自分事」として、お話いただいた内容がたくさんあったので、そういったこともキーワードに加えながら、よいキャッチフレーズができればいいと思っています。

家庭で、親子や三世代が実は学び合っているということ。親御さんやおじいちゃんおばあちゃんは、お子さんに教えるだけではなくて、今の子どもから今のことを学んでいます。この姿勢はすごく大事なろうと思いました。

地域は家庭に対して何ができるのかを考えると、コミュニケーションによって家庭の中の学び合いを促進するような取組を地域で推進することではないかと思いました。学び合いは、ふれあいとか、関わり合いともつながると思います。学び合いの促進は、愛着の形成をめざす家庭支援でもあると思います。子どもに愛着を形成できなかった人も、適切な支援で立ち直ることができると思いました。愛着形成については年齢にかかわらず、やはり大事な問題だと思っています。

B班でも支援の話がありましたが、最後のC班は親からSOSがあったときに、できる人が応える活動をする報告でした。これはフォーマルな活動ではなくて、人とうまく関わらずに地域でうろうろしている子どもたちをダンスという活動で巻き込むことで、地域の渦を創って、活動に仕上げた事例です。その結果、多くの人があるところに巻き込まれて活動として育っています。これは偶然のなせる業ではありません。目に見えないニーズを発見する人がいて、そのニーズに応じて試しにやってみようという冒険する人がいて、こういう人の連鎖が、まさに地域の力として発展していくわけです。連携というと、大がかりで形式優先の印象がありますが、もう少しリアリティーのある連携、助けを求める所に手を差し伸べられるような地域をめざしていきたいですね。

- (L) コミュニケーションを図る行事って結構いっぱいあると思うんですよ。生涯教育という場では高齢者も生涯学んだり、世代間差別なく広がるコミュニケーションがあり地域には、文化祭があるという話も出たんですが知らない人も多い。個人と学校と地域は行政の方でつなげようという行事がいっぱいあるが、PTAには、忙しいのにそんな行事出られるかっつ、仕事やって御飯食べてるので、平日仕事を休んでまで来られないという人がいる。これは企業の協力がないと、どうしても親や地域にまで届かない。家庭教育推進と企業が、お互いWin-Winになるような、ものがあればいい。コミュニケーションの輪の中に、地元の企業、地域企業っていうのも含めてもいいのかなと思います。

(議長) 青年会議の活動はどうですか。

- (E) 企業としても地域の方からの声や何かあったときに子どもたちが会社によって来るなど、地域との関係性は強いが、行政や学校からの協力要請はあまりない気がするんですね。学校や企業やPTAの方から協力を求めて、教育を一緒にしていきましょうというのはすごくいいのかなと思います。

(議長) 教員とPTAのように協力したいのに壁を感じるとか、地域コーディネーターの情報が自分のところに届かないとか、みなさんがそれぞれの場所で頑張っていることを、お互いに知ることもなく、自分だけで終わっている感じがありますね。そういった孤立感にはつなげよう、広げようというワードが有効です。自分が知っていることを一人でも多くの人に伝えていくと、それはやがて地域全体に広がっていくのです。そこには教える側、教えられる側という概念ではなく、地域を「学び舎」として考えることで、大人も子どもから学ぶし、自分より弱い立場の方がやっていることから学ぶ。地域の中でも、肩書や立場、年齢を越えて、今まで学ばなかったような人から学んでいく姿勢を大切にしたらどうかと思います。その意味で、僕はA班のキャッチフレーズがすごくいいと思いました。

また、これまで自分の地元の活動だけで精一杯だったけれども、つながったことのない人や地域とつながってみようという視点が共有できたのではないのでしょうか。地域で生きるみなさん一人一人がまず第一歩として、今、自分の家庭や地域が求めるニーズを酌み取り、それに地域がどう向き合っていくべきかというテーマに、今日は到達できたのではないかと思いました。

(C) 家庭教育応援プロジェクトの中に、家庭教育応援企業があります。いろんな企業が名前を出して下さって、実はうちもこれに入っているんですが、正直堂々と言えるようなことはできていなく、せいぜい有給休暇を取りましょうとか、できるだけ子どもの行事には参加できるように配慮しましょうとか程度のことしかできていないです。具体的にこの事業について私たち委員がわかってなければと思いました。

(議長) 県中域内の255社が家庭教育応援企業。その実践を知ることは確かに必要なことだと思います。事務局からコメントありますか。

(事務局) 企業内で、自分の家族を大切にする体制作り。そして、社員に向けての家庭教育研修会の開催などを取組内容としていますが、コロナ禍の影響で滞っているところです。今年度は、企業と協力した事業・研修を実施したいと考えています。

(議長) 確かに企業も巻き込みながらの家庭支援、地域支援という視点はいいと思います。

(L) PTA活動で、今年の夏に福島ファイヤーボンズとスポーツフェスティバルを企業の協賛金も募って企画しています。これも考えれば一つの家庭教育につながっていくのかなと思います。一つの結果例としてお話できるかなと思います。

(議長) それぞれのお立場で取り組んでいらっしゃる地域の活動が、家庭教育とどのようにつながっているのかを、見える化してみるといいのではないのでしょうか。みなさんの取組が、地域の中で各家庭とどうリンクしているのかを意識しながら活動していけば、この1年間で、新たな発見があるかもしれないと思うので、すごく楽しみになってきました。

今回、自分事として家庭教育支援をとりあげ、自分の所属する町、また自分がいる家庭の問題として考えた場合に、どんなことができるのかという視点で検討してまいりましたが、委員の方のご意見から、様々な魅力的な提案が出てきたと考えています。これをうまく整理できるかどうかわかりませんが、何らかの結論を得たところで、またお伝えしていきたいと思います。1月に、お互い何かお土産を持って集まれるように、頑張っていきましょう。今日は本当にありがとうございました。

